

イオン트로ニクスにおける 酸化物・カルコゲナイドの新機能

Emerging functionalities of oxides and chalcogenides in iontronics

日時 9月20日(水) 13:00-17:00

会場 ハイブリッド開催 (熊本城ホール+オンライン)

電解液と半導体・金属の界面でのイオン트로ニクスによって超伝導や発光素子、高い熱電能など幅広い物性・デバイスが実現できると注目されています。本シンポジウムではイオン트로ニクスにより創発された遷移金属酸化物、カルコゲナイド材料の最前線の研究をご講演いただきます。

【招待講演者】

全固体電気化学熱ランジスタ

— 遷移金属酸化物の熱伝導率を電氣的に切替える固体スイッチ —

太田 裕道(北大電子研)

水インターカレーションによる層状酸化物の蓄熱材料応用

岡本 範彦(東北大金研)

イオンゲルを用いた機能性原子層発光デバイス

蒲江(東工大理)

水素化強相関ニッケル酸化物を用いた電気伝導制御と

抵抗変化デバイス適用

李 好博(阪大産研)

酸化物ヘテロ構造とプロトンを用いたニューロモルフィック素子

矢嶋 赳彬(九大シス情)

分子やイオンを介した遷移金属カルコゲナイドの広面積調整・物性変調

桐谷 乃輔(東大院総合)

イオンゲートによるファンデルワールス強磁性半金属の磁性制御

中野 匡規(東大院工、理研CEMS)

主催 応用物理学会機能性酸化物研究会

世話人：上野和紀(東大総合) 秋永広幸(産総研) 組頭広志(東北大多元研)

松野丈夫(阪大理) 田中秀和(阪大産研) 中川原修(I-PEX Piezo Solutions(株))